

中学生にも忍び寄る影

北崎中学校 二年一組 小賦 荻菜

「お酒」というものは法律で未成年が飲むことが禁止されており、ほとんどの未成年が飲酒なんてしていません。未成年にあっては、お酒は遠い存在ではないのです。

中学生や高校生の飲酒体験は一番に冠婚葬祭、二番目に家族と一緒にするときということが分かっていきます。特別な日などに安易な気持ち

ちで自分の子どもなどに一杯を進めてしまう大人を時々見かけますが、「未成年者飲酒禁止法」という名前通りの法律で、未成年者は飲酒を禁じ、その親は飲酒を見つめた場合、科料に処せられるなど、未成年者、そして、その親もしっかりと子どもを見守らなければならぬのです。

実際に未成年者が飲酒した場合の悪影響は、身体的な影響、精神面における影響、社会性への影響があります。いずれも良し

とが一つもありません。まず、「身体的な影響」というのは、脳の発達に影響する「脳障害」です。脳が発達している時期にお酒を飲むと、脳の神経細胞を破壊し、脳萎縮を早くもたやす危険があります。なんと、普通なら加齢とともに四十代ぐらいから発症する病気です。他には、肝臓、すい臓などにも病気が発生する恐れがあります。つぎに、「精神面における影響」というのは、最終的に死の危険もある「アルコール依存症」です。飲酒開始年齢が若いほど短期間で発症するケースが多いとされ、習慣的な飲酒を始めたら発症するまで中年男性が十五年から二十年の間に比べ、未成年は数ヶ月から二年の間に発症してしまいます。最後に「社会性への影響」というのは、「社会性への悪影響」のことです。若い時期からお酒を飲み始めた人ほど、不慮の事故に巻き込まれる危険性が高いとされ、心理学や成績不振、中退になつてしまふこともありまふ。

私は今回、「未成年飲酒」のことを調べてみて、未成年がお酒を飲むことにはメリットよりもデメリットがとでも多くついてきて、飲んでも良いことではない人だなと思いました。特に、未成年が飲酒をすると、とても命の危険性があることか怖かったです。未成年飲酒を止めるために「STOP! 未成年飲酒」というミニボルを上げて活動している「ビール酒造組合」というものがあることも初めて知りました。私は未成年飲酒を止めるためにはまず、未成年者の方々に飲酒とはどのようなものかというのをしっかり知ってもらうことが大切だと考えています。そのためは、まず大人がお酒をすすめるのではなく、止める側に立つことが大切だと思います。また、未成年からしっかり断るといいうことも大切だと思います。